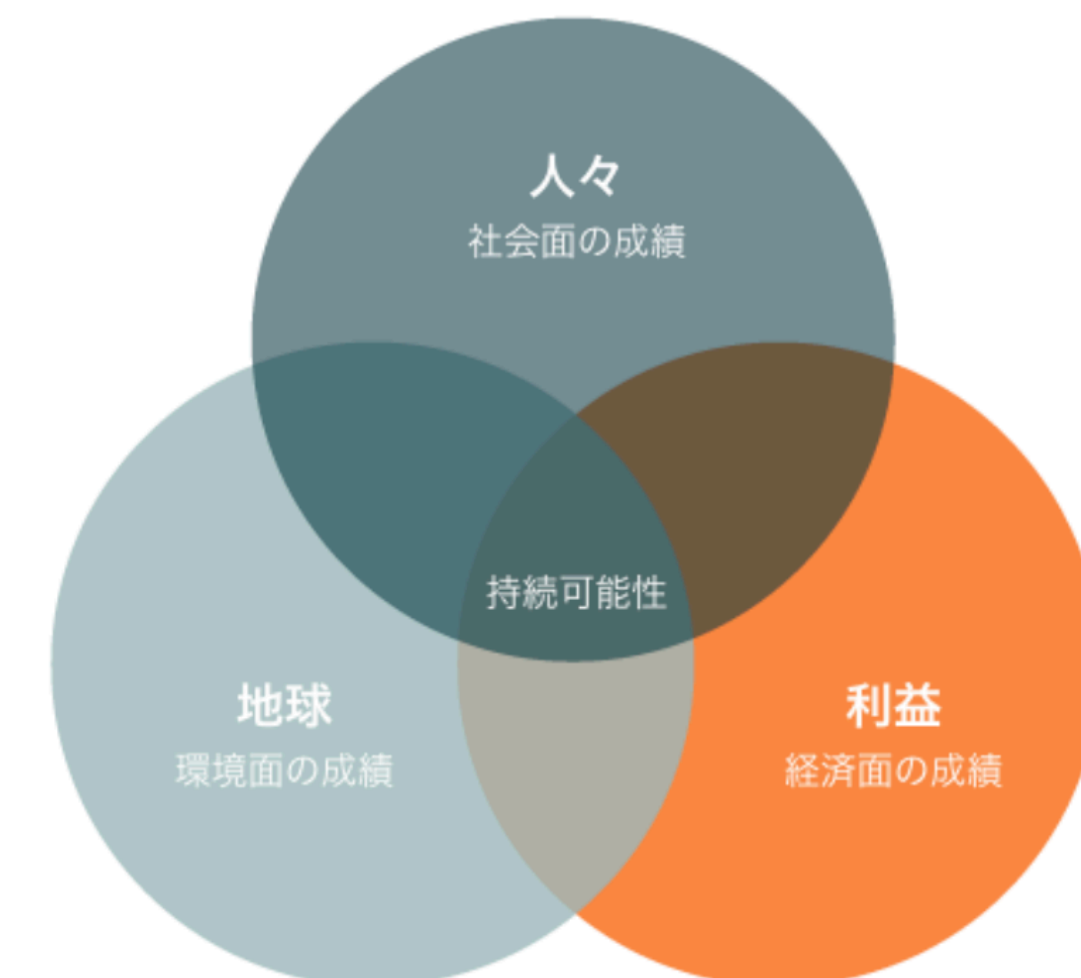


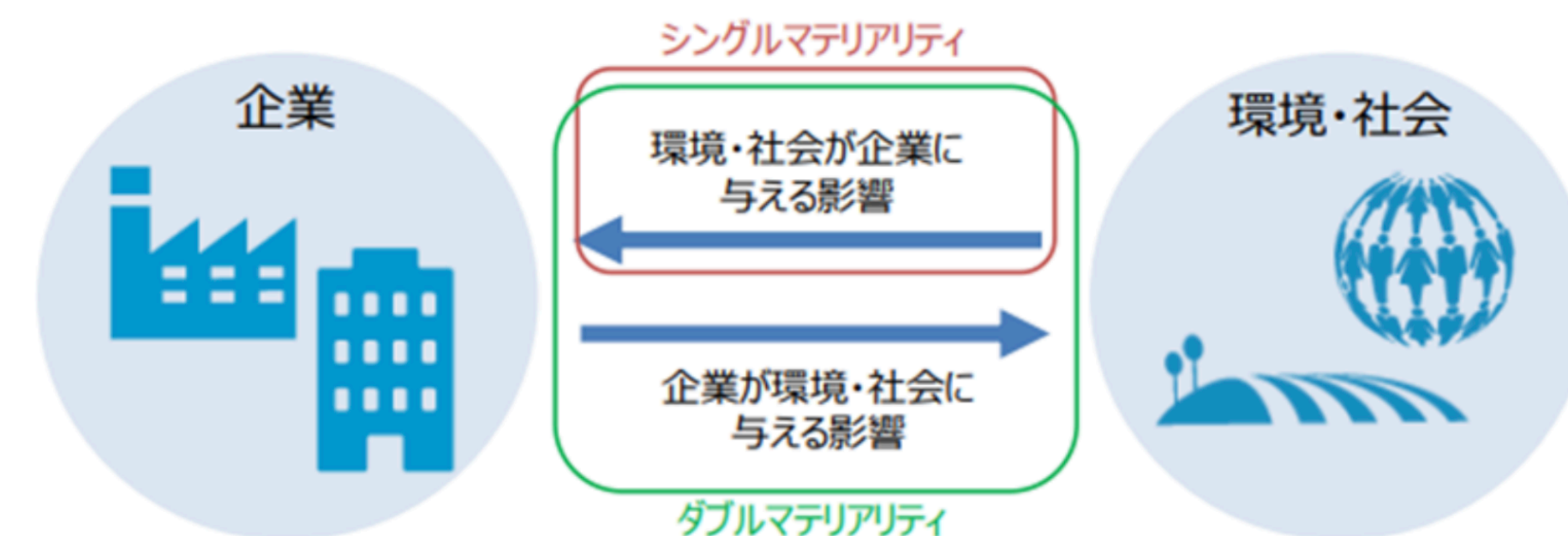
## • 企業の持続可能性への貢献ステップ

- 企業活動を環境的側面、社会的側面、経済的側面の3つの側面から評価  
(トリプルボトムライン)
- 全ステークホルダーを考慮：株主、顧客、取引先、社員、地域社会、将来世代、地球環境



- そのために非財務（サステナビリティ）情報の開示が重要な手段であり、  
開示フレームワークの統合化の動きはあるものの、現状としては多種多様。  
切り口としては、

- スcopeの違い：TCFDは気候変動、CDPは環境のみ、その他はESG対応等
- マテリアリティの違い：TCFD（⇐）、GRI（⇒）など
- 包括的か業種別のアプローチの違い：GRIは包括的基準、SASBは業種別の基準
- 時間軸の違い：



事業や組織が生み出す一連の流れ「インプット → アウトプット → アウトカム → インパクト」

- ▶ ESGパフォーマンス：インプットからアウトプット（モノ・サービス）までの計測
- ▶ **ソーシャルリターン（インパクト）のパフォーマンス**：インプットからアウトカム・インパクトまでの計測

事業や組織が生み出す一連の流れ「インプット → アウトプット → **アウトカム → インパクト**」

非財務情報の開示  
フレームワーク

非財務情報開示フレームワークの内、  
インパクト計測を含むもの

インパクト計測にフォーカス

GRI, SASB

貨幣価値に換算

IWAI, VBA

→ 独自の手法  
(インパクトスコア、IOモデル)

貨幣価値に換算しない

IRIS (GIIN), GIIRS, IMP

→ ロジックモデルや  
セオリー・オブ・チェンジを利用